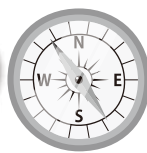


地質館だより



身近な昆虫、身近な化石

夏の風物詩といえば、子どもたちの昆虫採集。佐川の山のあちこちに目を向けると、カブトムシやセミ、バッタなど、さまざまな昆虫が身近な自然に息づいていることに気づきます。これらの昆虫は、「節足動物」と呼ばれるグループに属し、体が節に分かれ、たくさんの足を持つのが特徴です。

実は、同じ節足動物の仲間が、石の中にも眠っています。隣町にある横倉山は、日本で最も多くの三葉虫の化石が見つかる場所のひとつです。この横倉山も、以前から当エッセイでご紹介している黒瀬川帯の一部なのですが、現在、地質館で開催している黒瀬川帯の特別展でも、横倉山の三葉虫の化石を紹介しています。展示されている三葉虫の中には、「完模式標本」と呼ばれるものもいくつかあります。これは、新しい種として科学的に名前をつけるときの“基準”となる、とても重要な標本のことです。まさに現在展示中の化石をもとに、三葉虫の一種が世界に認められたのです。

身近な虫たちを追いかける夏の日の体験が、数億年前の生き物との思わぬつながりを教えてくれるかもしれません。昆虫と違い三葉虫は簡単には採集できませんが、この夏は、昆虫と化石という「節足動物の今と昔」にふれて、自然と地球の歴史に思いをはせてみてはいかがでしょうか。

8月の地質館イベント

8月17日（日）（予備日：8月23日（土））化石発掘・クリーニング体験
地質館ウェブサイトで募集中。詳しくは地質館ウェブサイトで。
8月24日（日）12:00～&15:00～（10分程度） 展示解説「蛇紋岩と謎に包まれた黒瀬川帯」



佐川町立 桜座

佐川町甲346番地1 ☎0889-22-7878 休館日：月曜



8月17日それいけアンパンマン映画上映会

お待たせしました！毎年恒例、アンパンマン映画上映♪
10時と14時の計2回上映します。詳細は下記をご覧ください。

映画それいけ！アンパンマン「チャポンのヒーロー」

●日 時 令和7年8月17日（日） ①10:00 ②14:00
*開場は上映時間の30分前
●料 金 親 子 1,500円（当日2,000円）
一 般 1,000円（当日1,300円）
中学生以下 700円（当日1,000円）
*2歳未満児抱っこの場合無料

〈チケット販売所〉桜座、サンシャイン佐川店、マルナカ佐川店、
ローソンチケット（Lコード62303）

お近くにチケット販売所がない場合は、上映前日まで電話予約も承っております。（桜座 0889-22-7878）



9月6日（土）第10回桜座ロビーコンサート開場12時30分 開演13時

出演者13組が決定しました！観覧無料です。今回は10回記念コンサートということで、もう一組演奏予定です。みなさまのご来場をお待ちしております。

青山文庫だより

名教館の創設時期について

今回は名教館ができる前の佐川の学問の状況をご紹介しますので、今回は名教館の創設時期について考えてみましょう。

名教館の歴史は、6代領主・深尾繁澄が深尾家子弟のための家塾を佐川土居内に開き「名教館」と名付けたことにはじまります。

家塾の創設を名教館の創設とする点に異論をはさむ人はいないと思いますが、実は家塾の創設時期については諸説あります。

例を挙げると、私の手元にある正史に近い歴史書には次のように記載されています。

- ①『佐川町誌』大正8（1919）年発行
安永9（1780）年創設
- ②『佐川郷史』昭和47（1972）年発行
安永元（1772）年創設
- ③『佐川町史 下巻』昭和56（1981）年発行
創設時期の明記なし（ただし、名教館は96年間続いたというような内容が書かれているので、文脈から名教館の終焉を義校・名教館の廃校としていると推測して逆算すると、安永7（1778）年の創設となります）

私は明和9（1772）年創設だと考えています

ので②とほぼ同意見となります。明和9年が安永元年に改元されるのは11月16日なので、改元前に創設されているかどうかで明和9年なのか安永元年なのかが決まります。ただし、昔はここまで細かく区別して表記していなかったようなので、②が間違いだと指摘するつもりはありません。

私がそう考える根拠は、家塾・名教館創設の際に佐川に招かれた儒者・山本日下の墓碑の記載です。墓碑には、安永元年に領主に招かれて佐川で教えはじめたというような記載があります（ここでも改元を意識した表記にはなっていません。おそらく②の根拠もこの墓碑でしょう）。

そして、当館が所蔵する山本日下の自筆書には、明和壬辰（9年のこと）6月12日の夜に詠んだとされる詩が書かれています。また、自身について「臣」という言葉も使われていることから、この時すでに深尾家の臣下になっていることがわかります。

墓碑と自筆書を併せると、日下は明和9年から佐川で教えはじめたと推測できますので、当館では家塾の創設時期を明和9年としています。

蛇足ではありますが、①が安永9年とした理由に心当たりがあります。①の編纂時に参考とした資料の中に「佐川村誌」があります。この

本は現存していないので私の推測となりますが、現存している「尾川村誌」や「斗賀野村誌」、「加茂村誌」や「黒岩村誌」が手書き文字で刷られていることから、「佐川村誌」も同様であったと思われます。手書き文字の場合、書いた人の筆跡によつては「元」と「九」は区別しにくい場合があります。つまり、①の理由は手書き文字の見間違いなのではないかと想像しています。

なお、家塾・名教館の創設時期を裏付けた山本日下の自筆書（正式な資料名は、山本日下詩「寸子西園繡虎文」です）は、現在開催中の蘭林展で展示していますので、是非見に来てください。お待ちしております。

（青山文庫 藤田有紀）

〈展示案内〉

○企画展「伊藤蘭林生誕210年記念展示 蘭林と佐川の学問」

○企画展「田中光顕が遺したものと志士たちの遺墨Ⅲ」

○小展示「植物学者・牧野富太郎」
6月28日（土）～10月5日（日）